

Submit してみよう

岩崎 泰雄

東邦大学医療センター大森病院神経内科教授

Submit してみよう。今は亡き、上司であられた、当時のボスであられた大橋病院第四内科の故木下教授より、いつも、論文書いたか、書いたかと、言われていた事を思い出します。留学していた時も、その時のボスもとにかく、基礎の事を生かして、うまく、臨床に生かし、仮説を立てて実験しろと、連日のごとく、言われていた事も、思い出します。いずれにしろ、この2人の上司に巡り会えたため、現在の自分がある事を常々、思い感謝しております。何と、ラッキーであった、事をご紹介させていただきます。小生は筋萎縮性側索硬化症（ALS）という、神経難病中の最たるものに関して、研究をさせていただいていますが、このALSに関して遺伝子異常（これは、SOD に関しての遺伝子でした）が初めて発表されたのが、1993年であり、

小生は、脳せき髄異常かと思いました。当時、ALS患者さんすべての、髄液は保存していたため、その髄液のSODに関して測定し、どうせだめだから、有名な雑誌から、投稿してみようと思い、Lancetに投稿したところ、わずか、1週間でacceptの通知が来ました。後で、考えれば、まったく、ずれた事を投稿したのにと思いました。この事より、研究に関しては、新しい事をやれば、acceptにつながると、つくづく、思いました。

この事を常にここにおき、継続して、研究を行っております。

もう一度、ラッキーな事を待っております。

DOI: 10.14994/tohoigaku.2018-023